

本庁舎建設に関する特別委員会小委員会 ワークショップ報告書



ワークショップテーマ

大テーマ1 求められる庁舎像について

小テーマ(1) 災害対応能力について(◎)、建設地の安全性について(◎)

小テーマ(2) 必要業務量に対する庁舎の在り方について(◎)

大テーマ2 庁舎とまちづくりについて (建設位置によるメリット・デメリットについて)

小テーマ(3) 庁舎の与える経済効果について(◎)

小テーマ(4) コンパクトシティとの関わり(◎)

大テーマ3 庁舎建設における懸念事項について

小テーマ(5) 交通渋滞について(◎)、駐車場について(◎)

◎:論点の整理が必要なもの
○:調査の必要なもの

1 求められる庁舎像

(1) 災害対応能力、建設地の安全性

安全な場所かどうか

災害に巻き込まれない場所か

地盤調査の比較、水害時の対応のあり方を明確にする

地震、浸水に対する安全性

液状化の被害がない場所か

建物が強靱かどうか

新しい技術の採用

司令塔機能

職員が集まれるか
(水害、地震)

職員の安全と環境の整備

出撃拠点

職員の動員体制の確保ができるか

南北の遮断に対する懸念 (地震時)

職員

災害対応機能の有無

災害対策本部として機能するか

防災拠点としてのアクセス、駐車場

通信体制の確保

消防本部との連絡・連携のあり方

災害用車輛の体制確保

災害物資の確保スペース

避難所機能

避難スペースの確保

地震、水害時に機能するか

1 求められる庁舎像

(2) 必要業務量に対する庁舎のあり方

市民にとっての使いやすさ

高 ↑

対面来庁の重要性

相談窓口の充実

業者対応の一連化

一般市民対象（市民課、福祉課、保健センター）は駅北庁舎、特定対象（業者、議会等）はコンパクトなものに

建設部門

終末業務の一連化

子育て業務の一連化

ワンストップによる市民サービス

ネット接続環境

ICTの活用、AIロボット、オンライン手続

低 ↓

DXの活用、事務の合理化

将来展望との整合性

業務量の把握 ⇒改善できるかどうか

人口減少のスピードの確認（業務量の分析）

庁舎標準面積算出基準値が適正か

職員にとっての使いやすさ

職員の働きやすさ

効率化のための新しいレイアウト

庁舎内移動のロスがないこと

効率的な設計の研究（床面積、高さ等）

職員用スペース

分散か集約か

できるだけ小さな機能的な庁舎

庁舎1箇所での集約は可能か

2庁舎体制のメリット・デメリット

市民の移動交通

議会機能

議会棟のあるべき姿

2 庁舎とまちづくり

(1) 庁舎の与える経済効果

外からの経済効果

来庁者が及ぼす経済効果（買い物、食事）

近隣店舗（飲食、その他）

内からの経済効果

職員が及ぼす経済効果（食事、駐車場）

周辺の経済効果

庁舎が周辺の土地利用に与える影響

近隣駐車場

資産価値の向上

公共、民間の集約により人の移動が容易になる

民間企業の出店（公益施設）

周辺のまちづくりに与える影響

日常生活での経済循環とともにあり、庁舎がその要素として成立

メリット ⇒ 効果の検証が必要

セラミックバレー中心拠点としての経済効果

環境への配慮とライフサイクルコストの縮減

庁舎そのものはお金を生まない

庁舎が商業との複合施設になれば経済的効果はある

庁舎に単独でにぎわいを生み出す機能はない

庁舎のにぎわいのためには交流センター機能が必要（費用は誰が払うか）

ランドマークとしてのにぎわい創出

通勤時間帯の混雑によるロス

人が増えるが経済的効果はあまりない

地価が高いところだと税等が入らない

欠点

2 庁舎とまちづくり

(2) コンパクトシティとの関わり

そもそもコンパクトシティとは

ネットワーク型コンパクトシティは人口10万人のまちでは成立しない

ネットワーク型の道路網、公共交通、郊外整備が必要

庁舎がコンパクトシティの中心になる必要はないが、ワンストップで来庁できるのは良い

庁舎周辺のまちづくりとの整合性

市民の活用スペースの使い方でまちづくりの拠点となる

庁舎が魅力のあるまちづくりの中心の一つにはなる

都市機能の立地誘導

今のコンパクトシティの方向性に疑問

中心市街地の範囲をどう考えるか

多治見市の中心市街地は歴史の中で生まれたもの

中心市街地活性化基本計画の見直し

駅周辺整備事業の十分な市民合意が必要

各地域でも核となる施設が必要（公民館、交流センター）

郊外への対応

あるべき庁舎像 ⇒どこにあっても便利であること

親しみやすい（来やすい）庁舎をつくる

コンパクトシティにおける道路網のあり方

コンパクトシティにおける公共交通のあり方

公共交通のハブ地点での公共サービス

公共交通の充実

2 庁舎とまちづくり

(2) コンパクトシティとの関わり

コンパクトシティのメリット

公共サービスの集中 ⇒コストの削減

行政コストの削減
施設、インフラ整備の効率化
公共サービス拠点
同じサービスが受けられる

郊外の役割 が明確化

周辺地域の活性化を考
える必要（市民農園、公園、
健康づくり）

コンパクトシティのデメリット

郊外の人が公共サービス を受けにくい

対面が必要な場合、そこへ出かけ
なければならない
歩いて行ける距離感に逆行する
郊外からの移動手段と費用
中心地域外からの移動ロス

公共と民間との
競合関係

公共交通の 維持・利用者 の集約

公共交通の利用

中心市街地の活性化

銀行、商業施設、税務署、病院
等の集中
魅力的な中心市街地が不可欠

郊外の衰退

買い物難民
周辺地域の整備がおろそかになる可能性
郊外と中心拠点の格差
住民の不公平感

3 庁舎建設における懸念事項

(1) 交通渋滞、駐車場

市民にとっての訪れやすさ

公共交通との関連性・重要性

公共交通の整備

駐車場は必要だが、公共交通を利用させるならまちの設計から考える必要

自家用車より公共交通が便利

交通渋滞が減るような公共交通の充実
(渋滞時間帯)

規模

200台で市民利用は可能か

将来人口と将来の車利用の検討

人口減と高齢化による車利用者の減少

利便性

駐車場は近いに越したことはない(地上につくる)

公用車・職員用

職員用(自家用)駐車場の確保

職員(公用車)移動ロス

コスト

民間駐車場との調整

駅北側が駐車場だらけになるのは避けるべき

庁舎が渋滞を増加させないか

庁舎による市内共通への影響

駅北の通過車両台数の増加

庁舎への車の集中により地域住民の車移動が妨げられる

都市計画道路の早期実現

災害発生時の移動環境

そもそも駐車場とは

駅北地区は整備地域がせまく、周辺地域との連携が悪い状態で交通を増加させるべきでない

川南方面からの渋滞

自動車での来庁を必要とする人とは

駐車場の重要性、必要性